

## 心臓刺激伝導系発見者・田原淳の顕彰

須磨 幸蔵<sup>1)</sup>, 島田 宗洋<sup>2)</sup>, 島田 達生<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>介護老人保健施設むくげのいえ, <sup>2)</sup>救世軍清瀬病院, <sup>3)</sup>大分医学技術専門学校

心臓刺激伝導系の異常に起因する各種不整脈に対する治療法の進歩には目覚ましいものがある。このような時、刺激伝導系の発見者・田原淳の業績、事績を知ることは重要である。われわれは多くの方々の協力のもと田原博士の顕彰を行ってきたが、その概要を述べる。

### 1) 出版物

1976年第5回国際心臓ペースティングシンポジウム(会長 故木村栄一, 事務局長 堀原一)が東京で開催された際に田原記念展示(委員長 須磨幸蔵)が行われ、その内容を記した冊子「Tawara Memorial Note」が配布された。1987年に原著(Das Reizleitungssystem des Säugetierherzens, Gustav Fischer, 1906)の復刻(責任者 須磨幸蔵)が行われ、1990年に邦訳(訳者 須磨幸蔵, 島田宗洋, 島田達生, 丸善), 2000年に英訳(訳者 K. Suma, M. Shimada, Imperial College Press)が刊行された。2003年にはフライブルクのL. Aschoff邸で発見された田原がAschoffに宛てた6通の手紙などを収めた「世界の心臓学を拓いた田原淳の生涯」(須磨幸蔵, 島田宗洋, 島田達生編著, ミクロスコピア出版会, 考古堂書店)が出版された。また、一高時代の日記や一般人向けのマンガ、小説も最近出版されている。

2005年11月、田原通信(日本不整脈学会・田原委員会, NPO法人ベースメーカーの父田原淳の会・代表 島田達生)が創刊され、現在まで5号が刊行されている。

### 2) 田原・Aschoff シンポジウム, 田原淳顕彰公開シンポジウム

1999年7月田原が研究を行ったマールブルク大学解剖学・細胞生物学研究所(旧病理学研究所)において、H. Kern教授(当時同大医学部長, のち学長)の発案により「Aschoff-Tawara Symposium on Cardiac Conduction System」が開催された。その後引き続き第2回(東京: 須磨幸蔵 [組織委員長, 以下同じ], 2001年5月, 福岡: 杉岡洋一, 6月), 第3回(Bad Oeynhausen: K. Minami, 2004年9月), 第4回(東京: 須磨幸蔵, 2005年11月, この回よりTawara-Aschoff Symposiumと改称), 第5回(中津: 島田達生, 2005年7月), 第6回(Heidelberg: D. Horstkotte, 2008年5月), 第7回(東京: 高柳寛, 2010年11月)が行われた。ほぼ隔年にドイツと日本で交互に開催されている。シンポジウムには「History and Recent Developments」の副題が付けられており、刺激伝導系や不整脈に関する学術的な問題のほか、日独医学交流の歴史などにも光が当てられる。

田原淳顕彰公開シンポジウム(世話人: 島田達生, 須磨幸蔵)は第1回(2003年9月), 第2回(2008年10月)いずれも大分県で行われた。

### 3) 顕彰碑, 日独研究交流展示ケース, ブロンズ像など

1994年7月, 中津市自性寺の境内に「田原淳碑」(発起者: 田原淳長女 故村山サダ)が建てられた。1999年7月Aschoff-Tawara Symposiumが行われた時, マールブルク大学解剖学・細胞生物学研究所に「日独研究交流展示ケース」が設置され, 油絵『田原淳とL. Aschoff プラスワン』(吉野順夫画 150号)が壁に掲げられ除幕式が行われた。また2007年9月田原淳ブロンズ像(佐脇健一製作)が中津市役所ロビーに置かれた。